

高養研 第38回研究協議会

事務局だより

開催日 令和5年7月26日～27日
会場 かでる2・7
発行 北海道高等学校養護教諭研究会事務局

今年度も高養研にご加入くださりありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、学校もほぼ通常に戻りました。高体連や学校祭などで生徒がイキイキと何気ない日常を楽しんでいる姿を見られるようになり、学校が本来の姿に戻っていることを嬉しく思います。



講演1

「保健室で活用できる認知行動療法—学校でのWEBストレスチェックを含めて—」

講師 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 教授
千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター長
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター長
(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究者兼務教授)

清水 栄司 氏

コロナ禍の中で、子どものメンタルヘルスに取り組む重要性が再認識されました。保健室には、トラウマ、発達、不適応、うつ、不安など、様々な問題を抱える生徒が来訪されると思います。傾聴、共感、受容の支持的な接し方が基本となります。その上で、感情、考え方（認知）、行動の悪循環に気づき、バランスをとる認知行動療法的なアプローチがメンタル不調への対処法としての有効性が知られています。私たち千葉大学では、医療機関で行う専門的な認知行動療法の一一方で、学校での授業として実践する認知行動療法プログラム「勇者の旅」プログラムが子どもの不安のスコアが低減することを証明し、その普及を進めています。また、学校でWEBストレスチェックを行うことで、生徒に高ストレスを気づいてもらい、教育相談でメンタルヘルス・ファーストエイドや問題解決法を活用してもらおうようお願いしています。以上のように保健室で活用できる認知行動療法を紹介します。

<講師プロフィール（高養研より）>

1990年：千葉大学医学部卒業後、同大附属病院に精神科医として勤務。

1997年：同大学院修了、医学博士、同精神科助手。

プリンストン大学留学中、遺伝子操作にて学習能力を増強した「天才マウス」の研究に従事。

2000年：帰国後、生物学的学習理論の立場から、パニック症の認知行動療法を開始。その後、他の不安障害に領域を広げ、同大精神医学講師、助教授を経て

2006年：千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 教授

2011年：千葉大学子どものこころの発達教育研究センター長を兼務

2016年：千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター長を兼務

2018年：文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」メンタル・サポート医療人とプロの連携養成、事業責任者

2021年：千葉大学「心理学・精神科学のデジタルメンタルヘルス研究拠点」推進責任者

講演2

共催：北海道高等学校安全互助会

「青森県の産婦人科校医制度と私の行う性教育の実際」

講師 あおもり女性ヘルスケア研究所 所長 蓮尾 豊 氏

青森県には県教育委員会が産婦人科医を県立高校の校医に委嘱し、性教育を行う産婦人科校医制度が40年以上前から存在します。私も1995年にJR弘前駅前の商業ビルで婦人科クリニックを開業したことをきっかけに産婦人科校医の委嘱を受け、以来27年以上産婦人科校医として県内外の中高校生に性教育講演を

行っています。当初は性教育の必要性を全く理解していませんでしたが、婦人科クリニックを訪れる10代患者の現状から性教育の必要性を痛感しました。

青森県の産婦人科校医制度や婦人科クリニックにおける思春期の現状、そして私の行う性教育の実際などを述べさせていただきます。性教育ではSNSのこと、LGBTQ+、月経の意味と月経トラブル対策、妊娠の仕組みと避妊、性感染症などに関して述べていますが、SRHR(Sexual & Reproductive Health & Rights)を基本に将来の女性活躍につながる内容を心がけています。

性教育の必要性やその内容などに関して養護教諭の皆様と考えてみたいと思っています。

<講師プロフィール(高養研より)>

1974年：弘前大学医学部卒業、同年弘前大学医学部産科婦人科学教室に入局。弘前大学附属病院以外では国立弘前病院、むつ総合病院、大館市立総合病院、三沢市立総合病院などで産婦人科医長として勤務。

1995年：JR弘前駅前の商業ビルで「弘前レディースクリニックはすお」を開業。

2008年：弘前レディースクリニックはすおを譲渡。

2014年：あおもり女性ヘルスケア研究所を設立し、婦人科健康相談、中高校での性教育講演、全国での低容量ピル普及の講演などを行っている。年間の講演回数は70~80回。

2013年~2019年：青森県産婦人科医会会長

2017年~2020年：日本スポーツ協会「国体女子選手における医・科学サポートシステムの構築」研究班員

研究 発表

「学校三師との連携」~よりよい連携のために~

発表者 北海道岩見沢東高等学校(定時制)

北海道岩見沢緑陵高等学校

養護教諭 柴田 加奈 氏

養護教諭 森川 綾乃 氏

研究テーマの検討過程で「養護教諭が日々行っている業務のなかから、私たちが共通の課題として持っていること」を深めたいと考え、「学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)との連携」について、まずは執務記録簿等をもとにした連携状況の交流から研究をスタートしました。

連携状況の交流から、新型コロナに関わり、学校三師とのやりとりは必要に迫られるように活発化したことがわかりました。空知管内の高等学校や高等養護学校にも協力していただき、具体的な連携の在り方を広く調査し、連携の利点や効果等を整理しました。

目新しい研究ではないですが、コロナ禍では学校三師との連携が大きな役割を持ち、よりよい連携が私たち養護教諭や学校全体の助けになることを実感しました。この関係性を絶やさず、生徒の健康と安全のためにできることを再考し、課題解決に向けた取り組みを組織的に実行していくために、この研究発表が少しでも会員のみなさまの参考になれば幸いです。

助言 情報提供

「学校保健の課題とその対応」

助言・情報提供者 北海道教育庁学校教育局 健康・体育課

健康・体育指導係 係長 篠原 弥智 氏

お願い

~ 高教研(北海道高等学校教育研究会)養護部会 会員登録 のお願い ~

諸先輩方の並々ならぬご尽力のおかげで、昭和61年に高教研の教科部会に仲間入りした養護部会の会員数が、残念ながら年々減少しています。養護部会が高教研教科部会の一つとして存在することは、養護教諭にとって大変意義深いことです。

充実した部会となるよう努力して参りますので、学校事情等あると思いますが、是非、会員登録をお願いいたします。(会員登録は、各校の管理職に申し出てください。)

